

## 小学校における総合学習についての研究

### ——実践校の分析を中心に——

藤 岡 秀 樹\*

(1996年12月9日受理)

Hideki FUJIOKA

A Study of Synthetic Learning at Elementary Schools :  
Focussing on the Analysis of Many Practical Elementary Schools.

#### 1. はじめに

1996年7月に出された中央教育審議会第一次答申には「これからの学校教育の在り方」と題する章の中で、「総合的な学習の時間」を設けて横断的・総合的な指導を行うことが提言されている。答申の記述は次の様になっている。

「(前略) [生きる力] が全人的な力であるということを踏まえると、横断的・総合的な指導を一層推進し得るような新たな手だてを講じて、豊かに学習活動を展開していくことが極めて有効であると考えられる。今日、国際理解教育、情報教育、環境教育などを行う社会的要請が強まってきているが、これらはいずれの教科等にもかかわる内容を持った教育であり、そうした観点からも、横断的・総合的な指導を推進していく必要性は高まっていると言える。このため、上記の②(引用者註:「教育内容の厳選と基礎・基本の徹底」を指す)の視点から各教科の教育内容を厳選することにより時間を生みだし、一定のまとまった時間(以下、「総合的な学習の時間」と称する)を設けて横断的・総合的な指導を行うことを提言したい。」

中央教育審議会答申が述べている[生きる力]なるものがどんなものであるか、詳細に検討・分析する必要があるが、総合学習の必要性が提起された点は、一定の評価を与えることができよう。

次の学習指導要領の改訂では、「総合的な学習の時間」が設けられる可能性は大きい。「総合的な学習の時間」の在り方を考える際には、これまでに実践されてきた総合学習の内容と成果を分析することが必要であり、また時宜になっっていると思われる。本論文では、小学校における総合学習の実践校の実践を分析し、成果と課題を検討することを目的とする。

## 2. 総合学習とは何か

平野 (1995) は、総合学習を3つのタイプに分けている。第一のタイプは、「子どもとは本来どのような存在か、そして、その子どもにとって学習とは何かということを問い直した結果として生まれたもの」であり、子どもたちの願いや求めに基づいた一つないはいくつかのテーマを追究する過程で様々な内容が学習されることになる。従来の教科等の枠にとらわれなくて学習を展開していこうとするということと、子どもが求め、追究する筋道に添っていくと結果的に学習内容が広範囲にわたることが多いから、総合という名称が用いられている。

第二のタイプは、教師があらかじめ内容の重要性(価値)から判断して決めた総合的なテーマについて子どもが学習するものである。総合的な知識の習得や総合的判断力の育成のため、体験的な活動の機会を確保するため、社会的な状況の変化によって生じた今日的なニーズに応えるため等々、目的や理由は様々である。従来の教科等のいずれかに特定せずに学習すべきテーマを設定し、その下で比較的広い領域にわたった内容が学習されるという意味での総合学習であり、「国際理解」「環境」「情報」「平和」「人権」「性」などの学習が該当する。

第三のタイプは、学校教育法施行規則第25条の2および小学校学習指導要領の総則の規定に基づいて行われてきた、合科的な指導に相当する総合学習である。つまり、「低学年においては、児童の発達段階を考慮して、教科の目標や指導内容の一部について、これらを合わせて指導を行った方が指導の効果があがる場合も考えられる」というものである。

平野は、この3種類の総合学習の内、第一のタイプとそれ以外のタイプとの根本的な違いを次のように考えている。第一のタイプは、「はじめに子どもありき」であるのに対して、第二と第三のタイプは、「はじめに内容ありき」である。また彼は、村井(1987)の「課題学習」と「志向学習」の考え方に依拠して、第一のタイプは「志向学習」であり、第二と第三のタイプは「課題学習」であるとみなしている。そして、第二と第三のタイプは、部分的には子どもが主体的に取り組むところもあるが、全体として、教師の敷いた路線を歩まされるのであり、教師から与えられたことをこなす学習であると捉えている。この平野の見解には部分的に同意しかねるところがある。しかし、体験活動を中心とした総合学習の実践は、これまでの普通の学校で行ってきた教科の枠組みに固定された実践とは異なり、どのタイプの総合学習も積極的な意義を有している。

本論文では、総合学習の実践校の内、長野県伊那市立伊那小学校、鳥取県泊村立泊小学校、奈良女子大学文学部附属小学校の3校の実践を取り上げる。前二者は、平野のタイプ分けでは、第一のタイプに該当するものである。

## 3. 伊那小学校の実践

### (1) 学校の特色と教育課程

伊那小学校は、南信地方の中核都市伊那市の中心部にある児童数約1000名強の学校である。総合学習は20年程前から取り組まれている。伊那小学校の教育課程は表1のようにな

っている。

表1 伊那小学校の教育課程（週当たりの時間配当数）

		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
国語 社会 算数 理科 生活 音楽 図工 家庭 体育 道徳		総 合 学 習	総 合 学 習	8	8	6	6
				3	3	3	3
				5	5	5	5
				3	3	3	3
				2	2	2	2
				2	2	2	2
						2	2
				3	3	3	3
				1	1	1	1
小 計		24	25	27	27	27	27
特別 活動	児童会				1	1	1
	クラブ						
	学級指導	1	1	1	1	1	1
総 合 活 動					3	3	3
合 計 時 数		25	26	28(6)	32(6)	32(6)	32(6)

教育課程の特徴としては、①第1・2学年では教科としての学習は全くなく、総合学習と特別活動から成り立っていること、②第3～6学年では、低学年の総合学習を継承する形で総合活動が週当たり3時間と教科学習、道徳、特別活動から成り立っていることが挙げられる（北原，1995）。第1・2学年の総合学習は、「自然」「社会」「数」「言語」「表現」「運動」などの領域に題材を求め、できるだけこの全領域を網羅するように授業は展開される。他方、第3～6学年の総合活動は、教科などの学習の基盤になるという側面と、教科などの学習で得たものをそこで実地に生かし、統合するという側面を持ちながら、それが一体となっていくものである。さらに、教科学習・道徳・特別活動から週当たり3時間程度捻出し、合計週当たり6時間程度、総合活動に充てている。総合学習・総合活動いずれも半年から1年以上にわたった長期間の実践であることも特徴として挙げられる。学級単位で「材」<sup>1)</sup>を決定して、実践を行っているが、適宜教師集団で話し合い、また子どもの願いや思いに応じて指導計画の修正を行っている。

## (2) 低学年の総合学習の事例

低学年の総合学習の事例として、1995年度2年忠組の「ヤギさんはみんなの友だち—忠組と白ちゃん—」を取り上げよう。年間計画（伊那小学校，1996）を表2に示す。実践の概要は以下の通りである。1年の秋に遠足に出かけた先でヤギを見つけ、ヤギを飼おうという気運が高まり、2月に雌ヤギを借りることができて『白ちゃん』と命名した。2年の

### 学級の年間学習計画（当初の計画に実践の歩みを加えたもの）

208

樹秀岡藤

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
自然・社会言語数学表現・運動道徳特別活動	<div>白ちゃんの好きな物を作ろう ・ニンジン・モロコシ・マメ ・畑探し ・畑おこし</div>	<div>畑の準備 種まき ・草取り ・水やり</div>	<div>畑の作物の収穫 ・収穫の喜び</div>											
	<div>白ちゃんの世話をしっかりしよう ・ヤギの習性 ・毎日の世話 ・白ちゃんへの思い</div>	<div>ヤギの病気調べ 獣医さん探し ・ヤギの病気 ・治療法</div>	<div>田畑先生のお話 ・獲まひの薬 ・配合飼料の量 ・はんすう</div>	<div>自分たちで干し草を作ろう ・草刈り、草干し ・1回にあげる量</div>	<div>夏休みの白ちゃんの世話</div>	<div>白ちゃんに赤ちゃん産んでほしいな</div>	<div>田畑先生のお話 ・発情の様子 ・雄ヤギのいる場所</div>	<div>発情調べ ・鳴いた数 ・頭突きの数 ・お尻の色 種付け、妊娠 ・交尾の観察</div>	<div>おなかの周りを調べ ・体重計 ・メジャー</div>	<div>赤ちゃんのできた白ちゃんの様子調べ ・ふんの形 ・食べた量</div>	<div>お乳で作れる物調べ ・ヨーグルト ・チーズ</div>	<div>変わってきた白ちゃんの体 ・おなかの周り ・体重</div>	<div>出産の準備</div>	<div>白ちゃんの出産</div>
	<div>柵作り</div>	<div>白ちゃん遊び場作り ・丸太型 ・スーパージャンボ ・スーパーアスレチック ・階段型</div>				<div>白ちゃんがどうしたら赤ちゃんを産むか調べよう ・家の人の話</div>	<div>赤ちゃんができた白ちゃんの世話を仕方考えよう 冬の餌 ・落ち葉拾い 冬の世話 ・小屋直し</div>		<div>総合祭で白ちゃんのことを知らせよう ・白ちゃんのクイズ ・触れ合いコーナー</div>					
	<div>餌代を集めよう ・アルミ缶集め</div>			<div>廃品回収①</div>						<div>総合祭で白ちゃんのことを知らせよう ・白ちゃんのクイズ ・触れ合いコーナー</div>				
	<div>白ちゃんノート</div>	<div>白ちゃんへお手紙 ・遊び場で遊んでね</div>		<div>畑の作文 ◎漢字</div>		<div>雄ヤギを借りる お願いの手紙</div>	<div>注射をするかしないかの作文</div>		<div>白ちゃんへお願いの手紙</div>		<div>白ちゃんの思い出</div>			
	<div>白ちゃん当番の発表</div>					<div>発育の様子 発表</div>	<div>祖父母参観 日の発表</div>		<div>七匹の子ヤギ ・ペープサート</div>					
	<div>お話を読もう</div>	<div>しずかのさんば</div>	<div>しずかとぼろ</div>	<div>しずかのけっこん</div>	<div>おめでとうしずか</div>						<div>とうさんのちしほり</div>			
	<div>当番の時間 ・午前 ・午後</div>	<div>アルミ缶の数の計算 ・(何十)・(何十) ・(何十十)・(何十十) ・1000までの数</div>	<div>長さ調べ ・cm・mm</div>	<div>白ちゃんの餌の量 ・はかりの読み方 ・kg・g</div>	<div>夏休みの白ちゃんの餌 ・かけ算</div>	<div>赤ちゃんいつ産まれるかな ・かけ算</div>	<div>長さ調べ ・m ◎かけ算九九→</div>	<div>お金の計算 ・(何十)(何十)は100</div>	<div>白ちゃんのバッジ作り ・三角形 ・四角形</div>	<div>お乳の量 ・ml・dl ・l</div>				
		<div>◎みんなの白ちゃん</div>	<div>じょうろ作り</div>	<div>かかし作り</div>	<div>はっぴ作り</div>	<div>◎白ちゃんとぼく、わたし</div>	<div>おなかの大きくなった白ちゃん ・紙版画</div>							
		<div>春の歌</div>	<div>ボール遊び</div>	<div>なわとび遊び</div>	<div>水遊び</div>	<div>伊那まつり ・勤王節月夜</div>	<div>白ちゃんの歌作り 音楽会 ・鍵盤ハーモニカ</div>	<div>秋の歌 ◎トルコ行進曲</div>	<div>冬遊園 ◎赤ちゃんぞうのこうしん</div>	<div>冬の遊び・スケート</div>	<div>跳び箱遊び</div>			
	<div>◎進んで実行→ ◎責任を持って→ ◎自分の考えをはっきりと ◎時刻を守る→</div>	<div>◎仲よく助け合い→ ◎じょうぶなからだ ◎自分の考えをはっきりと</div>	<div>◎耐えて努力→ ◎けじめのある生活 ◎物事のわけを考えて</div>	<div>◎自分の力で ◎物を大切に ◎正直な心</div>	<div>◎整理整頓 ◎失敗やあやまちを許せる心</div>	<div>◎命を大切に ◎学校、父母、自然への感謝</div>								
特別活動	<div>◎当番活動→ ◎春の遠足(常備寺) ◎ちびっこ仲よし会 ◎安全指導→ ◎給食指導→ ◎あいさつ指導→ ◎治癒指導→</div>	<div>◎係活動→ ◎学級会・学年集会 ◎ブルさんこんには集会 ◎保健指導→ ◎図書館利用指導 ◎廊下歩行指導</div>	<div>◎伊那まつり ◎ブルさんさようなら集会 ◎大運動会 ◎音楽会</div>	<div>◎おもりの木集会 ◎総合祭 ◎同和教育学習週間</div>	<div>◎公開学習研究会</div>									

4月になって飼育小屋の壊れた柵を直したり、遊び場作りが行われるようになった。白ちゃんの餌（ニンジン・マメなど）の栽培や世話を行いつつ、様々な領域と結び付けた学習を行っていった。餌代を集めるためのアルミ缶回収を通して、缶の数の計算をしたり、餌の量の計測を学習している。1か月の餌の量の計算では、多様な方法を考えさせ、足し算のみならず、かけ算の意味を教師は知らせている。また、白ちゃんに手紙を書いたり、絵を描いたり、白ちゃんの歌作りもしている。9月には、白ちゃんに赤ちゃんを産んで欲しいとの子どもの願いを生かし、獣医と相談させたり、雄ヤギを借りる手紙や発情させる注射をするべきかどうかの作文を書かせて、言語表現の学習に結び付けている。10月以降、発情の状態を継続的に観察し、体重や食事量、乳量の変化を通して、容積の単位の学習を行っている。ヤギの乳のできる物を調べることもしている。そして、学年末には出産を迎えることになった。

表2からも分かるように、ヤギの白ちゃんの1年間以上にわたる飼育を通して、ヤギとの関わりで自然・社会・言語・数・表現・運動と多岐にわたった学習活動がなされている。家畜の飼育は生活科で取り上げられることはあまり多くないが、本実践は生活科レベルの授業展開に留まっていないことが見いだせる。飼育に際して、様々な転換期やトラブルが生じた時には、教師が解決策をすぐに提示するのではなく、子どもたちに議論をさせたり、専門家に尋ねに行かせたりして、問題解決能力を身に付けさせるような指導を行っていることも注目したい。

低学年の総合学習の「材」としては、「ボール遊び」「ヤギ」「チャボ」「ひょうたん」「小麦」(以上1994年度第1学年)「しぜんと遊ぼう」「廃品で遊ぼう」「チャボ」「牛乳パック」「チャボと烏骨鶏」(以上1995年度第1学年)「メロン」「リンゴ」「ゆうびんきょく」「音楽劇」「チャボ」(以上1994年度第2学年)「チャボ」「小麦でパン作り」「ひまわり」「伊那の名物作り」(以上1995年度第2学年)などがある。概して、栽培や飼育に関する「材」が多いことが窺われる。このことは、長期間にわたって学習に取り組め、社会・言語・数などの多岐にわたった領域に位置づけることができるからであろう。生産活動を通して、生きて働く学力を形成しようとする考え方がその背景にあると言える。

### (3) 中・高学年の総合活動の事例

中・高学年の総合活動の事例として、1994年度4年謹組の「謹組お蚕さんー真綿からの糸取り・織物作りー」を取り上げよう。年間計画(伊那小学校, 1995)を表3に示す。実践の概要は以下の通りである。3年生で2回の蚕飼育を体験した児童たちは、4年生になると「繭から糸を取ったり織物をしてみたい」との願いが起こり、1万匹の繭を育てることを決めた。飼育方や蚕の病気などを調べ、春蚕と秋蚕の2回にわたる飼育を行い、継続的な観察を通して蚕の成長を把握させている。繭から採れた真綿からの糸取りは計3回行っているが、前回の経験を踏まえ、よりよい手法が採れるように、話し合いや教師の助言を行っている。得られた糸から織り機を使って、織物を作ることによって、その難しさやおもしろさ、楽しさに触れさせている。最後に、「お蚕さん1万匹物語」(お話し、劇作り)を作成させ、活動のまとめを行っている。

教科領域との関わりでは、飼育記録や「お蚕さん1万匹物語」の作成では国語と、桑畑の分布や郷土の製糸業の学習では社会科と、春・秋の生き物の暮らしや動植物や人の1日

表3 伊那小学校4年謹組の総合活動の年間計画(1994年度)

学級の年間学習計画(当初の計画に実践の歩みを加えたもの)

4年 謹組

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
総合活動	謹組のお蚕さん ・たくさん飼いたい ・糸をとりたい ・織り物をしたい	飼い方を調べよう ・1月1日開学 ・1万匹の飼育方法 ・蚕の病気	1万匹のお蚕さんを飼おう ・場所探し ・桑の地産作り ・たな作り・竹かご集め	真綿から糸を取ろう① ・糸の取り方・織り方調べ ・真綿作り ・糸取り	真綿から糸を取ろう② ・飼育の仕方を見直し ・糸の取り方・織り方調べ ・真綿作り ・糸取り	秋蚕を飼おう ・飼育の仕方を見直し ・糸の取り方・織り方調べ ・真綿作り ・糸取り	真綿から糸を取ろう③ ・10月よりさらに糸を取る工夫 ・真綿の作り方・引き出し方 ・糸のより方・重ね方 ・水のつけ方・水の量	真綿から糸を取ろう④ ・20日よりさらに糸を取る工夫 ・糸をはやく取る工夫 ・糸車の使用	織り物をしよう ・縦糸と横糸の仕組み ・織り機 ・織り機 ・作品作り	お蚕さん1万匹物語 ・自分たちの活動のまとめ(お蚕さん、劇作り)			
	謹組の畑作り	畑おこし うね立て・種まき	(ジャガイモ、ヘチマ) (トウモロコシ)	草とり	収穫・種まき		収穫・収穫祝い		畑の整地				
楽しい行事	長野社会見学	プール開き		水泳記録会	運動会	音楽会	秋の遠足	親子学習会	ももの木集い				
道徳	④新しい考えや方法を生み出す ④生命の尊重 ④自然愛護 ・ままりや規則を守る	④最後までやりぬく ・よく考えて行動 ・友との理解・信頼 ・正しいことは勇気をもって行う	④新しい考えや方法を生み出す ④生命の尊重 ④自然愛護 ・ままりや規則を守る	④最後までやりぬく ・よく考えて行動 ・友との理解・信頼 ・正しいことは勇気をもって行う	④新しい考えや方法を生み出す ④生命の尊重 ④自然愛護 ・ままりや規則を守る	④最後までやりぬく ・よく考えて行動 ・友との理解・信頼 ・正しいことは勇気をもって行う	④新しい考えや方法を生み出す ④生命の尊重 ④自然愛護 ・ままりや規則を守る	④最後までやりぬく ・よく考えて行動 ・友との理解・信頼 ・正しいことは勇気をもって行う	④新しい考えや方法を生み出す ④生命の尊重 ④自然愛護 ・ままりや規則を守る	④最後までやりぬく ・よく考えて行動 ・友との理解・信頼 ・正しいことは勇気をもって行う	④新しい考えや方法を生み出す ④生命の尊重 ④自然愛護 ・ままりや規則を守る	④最後までやりぬく ・よく考えて行動 ・友との理解・信頼 ・正しいことは勇気をもって行う	
国語	(文) 物語の世界 ④信濃の民話 「ガオー」「白いぼうし」「布引き山」「おぼす山」 (説明文) ④長野県見学 「長野への旅」 (作文) ④お蚕さんの記録 ④メモを生かして「長野社会見学記録文」 (書写) ④漢字・毛筆、硬筆、ローマ字	(文) 物語の世界 ④信濃の民話 「ガオー」「白いぼうし」「布引き山」「おぼす山」 (説明文) ④長野県見学 「長野への旅」 (作文) ④お蚕さんの記録 ④メモを生かして「長野社会見学記録文」 (書写) ④漢字・毛筆、硬筆、ローマ字	(文) 物語の世界 ④信濃の民話 「ガオー」「白いぼうし」「布引き山」「おぼす山」 (説明文) ④長野県見学 「長野への旅」 (作文) ④お蚕さんの記録 ④メモを生かして「長野社会見学記録文」 (書写) ④漢字・毛筆、硬筆、ローマ字	(文) 物語の世界 ④信濃の民話 「ガオー」「白いぼうし」「布引き山」「おぼす山」 (説明文) ④長野県見学 「長野への旅」 (作文) ④お蚕さんの記録 ④メモを生かして「長野社会見学記録文」 (書写) ④漢字・毛筆、硬筆、ローマ字	(文) 物語の世界 ④信濃の民話 「ガオー」「白いぼうし」「布引き山」「おぼす山」 (説明文) ④長野県見学 「長野への旅」 (作文) ④お蚕さんの記録 ④メモを生かして「長野社会見学記録文」 (書写) ④漢字・毛筆、硬筆、ローマ字	(文) 物語の世界 ④信濃の民話 「ガオー」「白いぼうし」「布引き山」「おぼす山」 (説明文) ④長野県見学 「長野への旅」 (作文) ④お蚕さんの記録 ④メモを生かして「長野社会見学記録文」 (書写) ④漢字・毛筆、硬筆、ローマ字	(文) 物語の世界 ④信濃の民話 「ガオー」「白いぼうし」「布引き山」「おぼす山」 (説明文) ④長野県見学 「長野への旅」 (作文) ④お蚕さんの記録 ④メモを生かして「長野社会見学記録文」 (書写) ④漢字・毛筆、硬筆、ローマ字	(文) 物語の世界 ④信濃の民話 「ガオー」「白いぼうし」「布引き山」「おぼす山」 (説明文) ④長野県見学 「長野への旅」 (作文) ④お蚕さんの記録 ④メモを生かして「長野社会見学記録文」 (書写) ④漢字・毛筆、硬筆、ローマ字	(文) 物語の世界 ④信濃の民話 「ガオー」「白いぼうし」「布引き山」「おぼす山」 (説明文) ④長野県見学 「長野への旅」 (作文) ④お蚕さんの記録 ④メモを生かして「長野社会見学記録文」 (書写) ④漢字・毛筆、硬筆、ローマ字	(文) 物語の世界 ④信濃の民話 「ガオー」「白いぼうし」「布引き山」「おぼす山」 (説明文) ④長野県見学 「長野への旅」 (作文) ④お蚕さんの記録 ④メモを生かして「長野社会見学記録文」 (書写) ④漢字・毛筆、硬筆、ローマ字	(文) 物語の世界 ④信濃の民話 「ガオー」「白いぼうし」「布引き山」「おぼす山」 (説明文) ④長野県見学 「長野への旅」 (作文) ④お蚕さんの記録 ④メモを生かして「長野社会見学記録文」 (書写) ④漢字・毛筆、硬筆、ローマ字	(文) 物語の世界 ④信濃の民話 「ガオー」「白いぼうし」「布引き山」「おぼす山」 (説明文) ④長野県見学 「長野への旅」 (作文) ④お蚕さんの記録 ④メモを生かして「長野社会見学記録文」 (書写) ④漢字・毛筆、硬筆、ローマ字	(文) 物語の世界 ④信濃の民話 「ガオー」「白いぼうし」「布引き山」「おぼす山」 (説明文) ④長野県見学 「長野への旅」 (作文) ④お蚕さんの記録 ④メモを生かして「長野社会見学記録文」 (書写) ④漢字・毛筆、硬筆、ローマ字
社会	④わたしたちの県 ④長野への旅 ④土地利用図 ④郷土の製糸業 ・安全なくらしを守る ・いろいろな土地のくらしとわたしたちの国土	④わたしたちの県 ④長野への旅 ④土地利用図 ④郷土の製糸業 ・安全なくらしを守る ・いろいろな土地のくらしとわたしたちの国土	④わたしたちの県 ④長野への旅 ④土地利用図 ④郷土の製糸業 ・安全なくらしを守る ・いろいろな土地のくらしとわたしたちの国土	④わたしたちの県 ④長野への旅 ④土地利用図 ④郷土の製糸業 ・安全なくらしを守る ・いろいろな土地のくらしとわたしたちの国土	④わたしたちの県 ④長野への旅 ④土地利用図 ④郷土の製糸業 ・安全なくらしを守る ・いろいろな土地のくらしとわたしたちの国土	④わたしたちの県 ④長野への旅 ④土地利用図 ④郷土の製糸業 ・安全なくらしを守る ・いろいろな土地のくらしとわたしたちの国土	④わたしたちの県 ④長野への旅 ④土地利用図 ④郷土の製糸業 ・安全なくらしを守る ・いろいろな土地のくらしとわたしたちの国土	④わたしたちの県 ④長野への旅 ④土地利用図 ④郷土の製糸業 ・安全なくらしを守る ・いろいろな土地のくらしとわたしたちの国土	④わたしたちの県 ④長野への旅 ④土地利用図 ④郷土の製糸業 ・安全なくらしを守る ・いろいろな土地のくらしとわたしたちの国土	④わたしたちの県 ④長野への旅 ④土地利用図 ④郷土の製糸業 ・安全なくらしを守る ・いろいろな土地のくらしとわたしたちの国土	④わたしたちの県 ④長野への旅 ④土地利用図 ④郷土の製糸業 ・安全なくらしを守る ・いろいろな土地のくらしとわたしたちの国土	④わたしたちの県 ④長野への旅 ④土地利用図 ④郷土の製糸業 ・安全なくらしを守る ・いろいろな土地のくらしとわたしたちの国土	④わたしたちの県 ④長野への旅 ④土地利用図 ④郷土の製糸業 ・安全なくらしを守る ・いろいろな土地のくらしとわたしたちの国土
算数	・大きな数 ・角 ・単位器の使い方	・つべつにいっしょに ・式と計算 ・わり算 ・わり算・小数	・大きな数 ・角 ・単位器の使い方	・つべつにいっしょに ・式と計算 ・わり算 ・わり算・小数	・大きな数 ・角 ・単位器の使い方	・つべつにいっしょに ・式と計算 ・わり算 ・わり算・小数	・大きな数 ・角 ・単位器の使い方	・つべつにいっしょに ・式と計算 ・わり算 ・わり算・小数	・大きな数 ・角 ・単位器の使い方	・つべつにいっしょに ・式と計算 ・わり算 ・わり算・小数	・大きな数 ・角 ・単位器の使い方	・つべつにいっしょに ・式と計算 ・わり算 ・わり算・小数	
理科	④謹組の畑作り ④春の生き物のくらし ・毛虫のふ化・成長	④草や動物とひとのくらし ・お蚕さんの1日のくらし・観察 ・植物・昆虫・人の1日のくらし	④夏と秋の生き物のくらし ・お蚕さんの1日のくらし・観察 ・植物・昆虫・人の1日のくらし	④秋の生き物のくらし ・季節とお蚕さんの成長の違い ・体の温度とみかへく。物のあたたまり方。水のゆくえ	④電気や光のはたらき ・冬の生き物のくらし。水のすがたと温度。1年間の生物のくらし	④お蚕さん1万匹物語 ④「はばたき文集」	④お蚕さん1万匹物語 ④「はばたき文集」	④お蚕さん1万匹物語 ④「はばたき文集」	④お蚕さん1万匹物語 ④「はばたき文集」	④お蚕さん1万匹物語 ④「はばたき文集」	④お蚕さん1万匹物語 ④「はばたき文集」	④お蚕さん1万匹物語 ④「はばたき文集」	
音楽	・ふるさとの四季 「さくらさくら」 ・楽しい演奏 「アマリス」	④長野県見学の歌 「信濃の国」 ・愛唱歌作り ・鑑賞 「ノルウェー舞曲第2番」	・ふるさとの四季 「まきばの朝」 ・ふるさとの四季 「とんび」 ・ふしのまこと 「みんなのゆめを」 ・鑑賞 「ホルン協奏曲第1番」	④お蚕さんに思いをよせて「つる」。せりふ作り ④音楽会をめざして ・楽しい演奏 「おどろろ楽しいボーレチケ」 「まいごのこひつじ」 ・鑑賞 「白鳥」	・ふるさとの四季 「もみじ」 ・ふるさとの四季 「冬の歌」 ・合奏 「茶色の小びん」 ・鑑賞 「白鳥」	④発表会の歌 ④発表会の歌	④発表会の歌 ④発表会の歌	④発表会の歌 ④発表会の歌	④発表会の歌 ④発表会の歌	④発表会の歌 ④発表会の歌	④発表会の歌 ④発表会の歌	④発表会の歌 ④発表会の歌	
図工	・絵を描こう 「生活の中から」	④たな作り ④本作り ・わたしのはん船。ゆかいな顔 ・ふしぎな生き物	④お蚕さん1万匹物語 ④お蚕さん1万匹物語	④お蚕さん1万匹物語 ④お蚕さん1万匹物語	④お蚕さん1万匹物語 ④お蚕さん1万匹物語	④お蚕さん1万匹物語 ④お蚕さん1万匹物語	④お蚕さん1万匹物語 ④お蚕さん1万匹物語	④お蚕さん1万匹物語 ④お蚕さん1万匹物語	④お蚕さん1万匹物語 ④お蚕さん1万匹物語	④お蚕さん1万匹物語 ④お蚕さん1万匹物語	④お蚕さん1万匹物語 ④お蚕さん1万匹物語	④お蚕さん1万匹物語 ④お蚕さん1万匹物語	
体育	・楽しいボールゲーム 「サッカー」 「ボートボール」	④負けるな車輪 「鉄道の運動」 「マット運動の連続技」 ・深いプールで「クロール」「平泳ぎ」	④負けるな車輪 「鉄道の運動」 「マット運動の連続技」 ・深いプールで「クロール」「平泳ぎ」	④負けるな車輪 「鉄道の運動」 「マット運動の連続技」 ・深いプールで「クロール」「平泳ぎ」	④負けるな車輪 「鉄道の運動」 「マット運動の連続技」 ・深いプールで「クロール」「平泳ぎ」	④負けるな車輪 「鉄道の運動」 「マット運動の連続技」 ・深いプールで「クロール」「平泳ぎ」	④負けるな車輪 「鉄道の運動」 「マット運動の連続技」 ・深いプールで「クロール」「平泳ぎ」	④負けるな車輪 「鉄道の運動」 「マット運動の連続技」 ・深いプールで「クロール」「平泳ぎ」	④負けるな車輪 「鉄道の運動」 「マット運動の連続技」 ・深いプールで「クロール」「平泳ぎ」	④負けるな車輪 「鉄道の運動」 「マット運動の連続技」 ・深いプールで「クロール」「平泳ぎ」	④負けるな車輪 「鉄道の運動」 「マット運動の連続技」 ・深いプールで「クロール」「平泳ぎ」	④負けるな車輪 「鉄道の運動」 「マット運動の連続技」 ・深いプールで「クロール」「平泳ぎ」	
生活	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	

の暮らしでは理科と、織物に対する思いの表現は音楽で、絵画や糸車・織り機作りなどでは図画工作と結び付けて展開されている。蚕の飼育を「材」として中核に据えながら、クロスカリキュラムの視点を加味した実践が行われていることが見いだせる。

中学年の総合活動の「材」としては、「舟作り」「子牛」「焼き物」「ポニー」「野鳥」「気球」(以上1994年度)「天竜川」「そば」「りんご」「イチゴ」「小麦」「手作り楽器」「音楽劇」(以上1995年度)などがあるが、低学年の総合学習の「材」が飼育・栽培に関わるものが多かったのに対して、中学年の総合活動の「材」では、もの作りに関わるものが増加しているのが特徴である。

高学年の総合活動の「材」としては、「リサイクルハウスの製作」「民話影絵劇」「焼き物」「大昔の家作り」「菊」「環境(ごみ収集、水質検査、廃油石鹸)」「野菜栽培と調理(郷土食など)」(以上1994年度)「野鳥観察」「縄文土器と料理」「蚕」「舟」「気球」「草花作り」「焼き物」「環境」(以上1995年度)などがあり、前年度から継続して取り組まれている活動も多くなっている。また、学級・学校内に留まらないダイナミックな実践が多いことも特徴である。

#### (4) 総合学習・総合活動の評価

伊那小学校では、通知表は発行されていない。それ故、本論文では授業における評価の在り方のみを検討することにした。最初に、伊那小学校の学力観を紹介しよう。伊那小学校の教師が考える「学ぶ力」は、①意欲にかかわる学力、②情意的な学力、③知識・技能的学力—の3つから成り立っている(伊那小学校, 1995, 1996; 北原, 1995)。そして、①が「学ぶ力」の中核であると捉えられている。意欲を単に「やる気」といった感覚的なものとして捉えるのではなく、意欲の具現化したものを「発想→構想→実践→自己評価」のサイクルと考え、そのサイクルを自分の力で回す中で、情意的な学力や知識・技能的学力が関わってきていると考えている(北原, 1995)。この考え方については、若干の問題点が見いだせる。つまり、意欲は学力の情意的領域の構成因の1つであるのに、情意的領域から切り離していることと、意欲にかかわる学力を学力(「学ぶ力」)の中核に据えていることである。後者については、情意的学力を重視する信州教育の特色が反映されたものである<sup>2)</sup>。

日常の授業では、①子ども自らが意欲のサイクルを回しながら追究している姿、②学習材と子どもとの望ましいつながり、③そこに働く知識・技能的内容—の3つを評価の観点として挙げている。前述の4年謹組の実践(1995年2月5日の学校公開時:「それぞれの計画に沿って布を織る」)における評価項目を検討してみよう。①の評価項目としては「糸の太さが一定になるように、引き出す真綿の量を調節していたか」「引き出す真綿の量と糸車を回す速さを加減しながら、同じ太さのしっかりよれた糸を取ろうとしていたか」「糸によりががかり過ぎないように、一定のペースで糸巻きに巻き取ろうとしていたか」「縦糸に横糸を通すとき、より正確で能率的な方法を考えようとしていたか」が挙げられている。②の評価項目としては「自分たちが作った真綿や糸、糸車や織り機を使って、夢中になって糸を取ったり織物をしたりする姿は見られたか」「友だちの方法を参考にしたり、協力したりして工夫していく姿は見られたか」が、③の評価項目としては「糸の太さが同じになるよう、真綿を引き出す量を加減することができる」「糸車の構造や回す速さから糸の

よりかかり具合を調節することができる」「縦糸に横糸を能率的に通すために、はた織り機の構造を知り、横糸の通し方を工夫することができる」が挙げられていた。

子細に検討すると、①の項目の中には技能的側面を評価するものが含まれており、「知識・理解」領域（認知的側面）が大きく関与しているものもある。意欲にかかわる学力の中に、「知識・理解」や「技能」を取り込んでいるとみなすことができよう。

#### (5) 伊那小学校の総合学習・総合活動に対する問題点と課題

伊那小学校の総合学習・総合活動は、大単元を基にしたダイナミックな実践であり、子どもの願いや想いを生かした実践であり、学力を認知的領域に限定せず、生きる力・感性・意欲などの情意的側面まで拡張して捉える信州教育のプラスの面が反映されたものとみなすことができよう。

しかし、幾つかの問題点も指摘できる。第一に、動物のみならず植物までも擬人化している点である。例えば、1994年度2年泉組の「大きくなってね メロンくん」の実践では、メロンを『メロンくん』と呼び、枯れてしまうとメロンのお墓を作ったことを挙げるができる。擬人化と科学的認識の獲得とは矛盾をきたすことになりはしないだろうか。

第二に、総合学習の形態が部分的にだが、パターン化している点である。栽培した植物や飼育した動物のための歌を子どもが創ったり、最後に物語にまとめ、劇を上演したりしている点である。

第三に、子どもの願いや想いを尊重することは大切だが、それらを無条件に認めることが、学習の展開に結びつくかどうかという点である。一定の教師の指導・方向づけが必要ではないかと思う。学校公開時のある授業では、議論の盛り上がり欠けたり、意見が分かれたりしたが、教師の介入が十分ではなく、結局はまとまりのない授業になってしまっていた。特に、低学年児童に対する教師の指導の在り方が問われるであろう。

第四に、学力の情意的側面や道徳と結び付けようとする（人間愛や生命の畏敬）あまりに、総合学習・総合活動が心情主義に陥る危惧が無いとはいえないことである。

以上のような問題点をどの様に克服していくかが、今後の課題ではないだろうか。

### 4. 泊小学校の実践

#### (1) 学校の特色と教育課程

泊小学校は鳥取県中部の日本海に面する農漁村であり、村で唯一の小学校である。オープンスペースのある教室や学校の畑、飼育施設などがあり、学習環境は恵まれている。8学級から成り、児童数は約230名程であり、ノーチャイム制をとっている。

総合学習の時間を単独として設けず、各教科や特別活動・学級活動の時間から捻出している。

#### (2) 総合学習の事例

泊小学校では、総合学習を次の様に捉えている。総合学習は「子どもの奥底にある求め」をよりどころに学習が展開するので、何よりも意欲を重視し、意欲こそ「学ぶ力」の核であると捉え、知識・技能を獲得する力や生き方はこの意欲と一体化するものである（泊小



学校, 1995, 1996)。これは、前述の伊那小学校の考え方に近い。実際の授業形態も、伊那小学校の中学年以降の総合活動とかなり似ている。また、「生きて働く力」を“学習への意欲”“学習の仕方”“豊かな心”“生き方”の総体であると捉えている(原田, 1995)。

総合学習で期待する広がり、期待できる感性をまとめたものが表4である。総合学習の学習内容は、教科学習の深化・発展を図る場合もあり、子どもの生活から生まれてくることもある。

表4 総合学習で期待する広がり、期待できる感性(泊小学校)

視 点	期 待 す る こ と
言語認識 ○読む力 ○聞く力 ○話す力 ○書く力	困難を克服しながら自ら調べる。活字に抵抗がなくなる。調べることもある。 目的をもって自ら取材する。人の話を興味深く聞き取る。したこと、見たこと、感じたことを、自分の言葉で素直に語れる。書くことがたくさんある。抵抗なく長い文章が事実在即して書ける。
自然認識	植物栽培・動物飼育などを通し、自然界の営みが分かる。命と触れ合う。五感をみがく。問題解決能力を養う。
社会認識	地域・国土・国際理解、歴史理解を通し、自分の生活との関わりを深める。先人の知恵に学ぶ。
数量概念	諸体験・諸経験を通し、数や量が実感としてつかめ、生活に生かせる。
社会性	人間関係が広がり、深まる。人間の良さに気付く。人権感覚がみがかれる。
真・善・美	自ら触れ、追求することにより、自分固有の表現ができるようになる。

総合学習の事例として、1996年度2年B組の「大すきだよ ひつじさん」を取り上げよう。年間計画(泊小学校, 1996)を表5に示す。実践の概要は以下の通りである。1年の秋に羊を2頭借りて、A組と一緒に飼うことになり、『メリー』と『メイ』と命名した。2年の4月に羊の毛を刈り、毛を使ってももの作りを行った。3月にはメリーが双子を産んだが、5月末に突然メリーが死に、メイも牧場へ帰ってしまうことになった。6月以降、双子の赤ちゃんの飼育を続けながら、「ひつじさん物語」(絵本)を作ったり、劇の上演に取り組む。三度にわたって、羊の毛を使ってももの作りを行っている。3学期には、羊の思い出を残そうとの子どもの願いに応え、版画や文集を作成することで活動を終えている。

表5から分かるように、羊の飼育と教科・道徳とを関連づけて授業を展開している。生き物を飼うことの大変さやメリーの死や赤ちゃんの誕生から、生と死を見つめさせて、命を考えさせている。「ひつじさん物語」の單元では20時間配当し、絵本作成や劇の台本・道具作成、そして劇の練習を行わせている。総合学習を通して、表現能力の高まりが見られる。低学年の実践では生活科を1つのコアとして、他教科と関連づけて総合学習を行っているものが多いように思われる。2年間にわたる飼育活動を取り上げた実践では、ヤギを「材」としたものがある(泊小学校4年A組, 1991)が、死や発情、出産と遭遇し、子どもたちの大きな変容が見られる。また、様々なトラブルに対して、子どもたちが議論し、問題解決能力を育てるような指導がなされている。

最後に、これまでに取り上げられてきた総合学習のテーマ(「材」)を挙げておこう(泊小学校, 1995, 1996)。「材」の取り上げ方もかなり伊那小学校に類似しているように思われる。

表5 泊小学校2年B組の総合学習の年間計画（1996年度）

2 年 B 組

## 総合学習年間計画

テーマ『大すきだよ ひつじさん』

泊村立泊小学校

		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総合単元	〈テーマのある活動〉												
	◎子どもの求め・夢 ◎教師の願い・援助												
特活	【学活】												
	【学行】												
生活	1. 2年生になったよ(6)												
	2. すてきな町をわたしたは2年生												
音楽	1. うたでなかよし(6)												
	2. ドレミであそんで(7)												
学	図工												
	ざいりょうやばしよのあそび(6)												
習語	①本をひらこう												
	②点にだして												
算数	1. 2年生になって(6)												
	2. たし算とひき算(5)												
体育	④陸上・器具・器械→												
	⑤水泳												
道徳	・がんばれば												
	・ノートのひこうき												
		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	

① 栽培活動を中心としたもの

あさがお(1年) さつまいも(1年, 心障学級) すいか(1年) 大根・たくわん(1年) 米作り(2年) おもち作り(2年) 大豆・豆腐(2年) やさい(2年) ビッグカボチャ(2年) 梨(3年) 綿(3年) 小豆(3年) そば(5年) メロン(心障学級)

② 飼育活動を中心としたもの

がちょう(1年) かぶと虫(1年) ウコッケイ(1～5年) ひよこ・にわとり(1～5年) 牛(1～4年) ヤギ(1～6年) 蚕(1～3年) うさぎ(1, 5年) 金魚(4年) ハムスター(4年) バンビ(4年) 羊(1, 2, 4年)

③ 創作活動を中心としたもの

船(1年) 池(3年) 紙作り(3年) 泊のリズム(3年) すだれ(5年) 家(5, 6年) 翼組の劇(5年) たて穴式住居(6年) 学級旗(6年) 卒業記念制作(6年) 気球(6年) 人形劇(6年) 古墳(6年)

④ 研究・探究的なもの

泊漬け(3年) 料理(3年) 水産教室(4年) 川(4年) 修学旅行(5年) お菓子(5年) 泊からの発信(5年) 世界探検隊(5年) 泊の名菓(6年) 泊村歴史発見(6年) 弥生ムラ(6年)

(3) 総合学習の評価

泊小学校では、総合学習の「評価と援助」の視点として、①できたことがその子なりに分かり、自分の言葉で想いを語れる、②その子の出来ばえを認める。プラスの体験を認め、次の発展に生かす、③その子に何が残るか、何が語れるか。現在そして未来を想いながらたえず挑戦する、④子どもとともに教師が挑戦しているものの手ごたえの実感をつかむの4点を挙げている。

総合学習の授業では、「関心・意欲・態度」や「知識・理解」などの観点で評価していない点も留意したい。

(4) 泊小学校の総合学習に対する問題点と課題

泊小学校では、伊那小学校とは異なり、総合学習の時間を設定せずに、教科学習や特別活動などから時間を捻出して行っている。それ故、教科との関わりの深いテーマ(「材」)をどの様に見つけだすのが、教師の力量にかかっている。

概ね、低学年では栽培・飼育活動が総合学習として成果をあげているように思われる。創作活動は、取り組みに対する意欲や技能に個人差があり、きめの細かい教師の指導が必要である。研究・探究的なものは、取り上げた「材」の内容によって、かなり成否が支配されるように思われ、今後の検討の余地があると思われる。

伊那小学校のところでも指摘したが、擬人化が見られる点が問題点である。

## 5. 奈良女子大学文学部附属小学校の実践

(1) 学校の特色と教育課程

奈良女子大学文学部附属小学校は、奈良市西部にある児童数約460名の学校で、1学年

2学級から成り立っている。

同校は、大正自由教育期に合科学習を提唱した木下竹次による実践を受け継ぎ、戦後主事に着任した重松鷹泰を中心に昭和20年代中期に作られた『奈良プラン』による教育を行っている。『奈良プラン』は、教科や特別活動といった分類ではなく、「しごと」「けいこ」「なかよし」の3領域<sup>3)</sup>から成る。「しごと」は、新鮮な感覚と知性に立って、自由な視点から弾力的に考えることのできる、いわば人間としての幅を育て、「けいこ」は、事理を究明して本質的に自己を生かし、人間としての深まりを育て、「なかよし」は相手を生かし、自己を生かして互いに協同する人間としての結びつきを育てようとするものである。この3領域は、相互に力動的・有機的関係をもって成立するものである(平成8年度学校要覧)。

「しごと」の特徴については、次の事例のところで述べるので、ここでは他の2領域について触れておきたい。「けいこ」は、人間形成の実質的内容となる基本的な能力を生活の手段として確実に習得させるところに主眼があり、特定の目標に応じた分科的な学習形態をとる。「なかよし」は、学校内において、自分の所属する有意義な集団をつくり、その生活に適応しながら成員の友愛と協同によって集団生活をし、また新たに建設していくことを主眼とし、学年や学級を解体した小集団による実践的な学習形態を中心としている(相部, 1995b)。

「なかよし」の時間は、週に2回の「グループなかよし」(計100分)と「なかよし集会」(低学年と高学年に分かれる。週1回40分)から成り立っている。「しごと」は、週当たり低学年では5時間、中・高学年では4時間配当されているので、その分、各教科の学習(=「けいこ」)の時間が一般の公立校よりも少なくなっている。

## (2) 「しごと」学習の事例

相部(1995b)によれば、「しごと」は、自然、人間、社会の真実の姿を求めて、その知見と視野を拡げ、身近な現実の問題を追究して新しい社会生活のあり方を洞察させ、それに向かって自己の生活態度ならびに生活環境をつくりかえていく意欲と実践力を育てることを主眼として、総合的な単元学習の形態をとるといふ。「しごと」は、各学級でテーマを決めて取り組まれている。

また、「しごと」学習は、低学年では「ものを見る目・気付く力を育てる」ことを、中学年では「ものごとを関係的にとらえる力を育てる」ことを、高学年では「自らの見方や考え方をつくる力を育てる」ことをねらいとしている(廣岡, 1995)。

まず、低学年の実践を紹介しよう。年間計画(奈良女子大学文学部附属小学校, 1996)を表6-1, 6-2に示す。一般校の生活科の配当時間が週当たり3時間であるのに対して、「しごと」は5時間(中・高学年では4時間)と多いために、十分に時間をとって活動することができる。また、子どもの発表・表現の時間も十分に保障している点も特徴である。1996年度2年月組の「もうちょっと『気になる』こと、大研究」の実践では、約4か月にわたって地域探検を行い(65時間)、さらに町で働く人について、もうちょっと『気になる』ことを調べ、劇や絵本で表現させたりしている(30時間)。一人の子どもの発表に1時間をかけ、質疑応答や討論を行っている。学校公開時の発表では、子どもたちで運営がなされ、表現力や発表力も優れており、子どもたちも伸び伸びと授業に参加していた。教師は、学習の環境設定に力をそそいでいるように思われる。低学年の「しごと」学習は、大単元主

表 6-1 「しごと」学習の年間計画 (第1学年)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
自由研究活動	朝の会(友だちの発表) 夏休みの自由研究					研究発表				自由研究発表		
観察・表現活動	『気になる木』のはっぱをふやそう -給食室のおばさん-					『気になる木』のはっぱをふやそう -おかあさん大研究-				『気になる木』のはっぱをふやそう -お手伝い大研究-		
フィールドワーク	休み時間の学校 休み時間の遊び 大淵池公園で遊ぼう					大淵池公園・若草山で遊ぼう 虫を探そう・鹿煎餅をあげよう 河原で遊ぼう(木津川の河原)				冬の生駒山 スケート遊び		
栽培活動	イチゴを 6年生との記念 食べよう 種蒔き(アサガオ)					夏休みのアサガオのお世話		種取り		サツマイモ 掘り		球根を育てる
飼育活動	ウサギとの休み時間 休日のお泊まり飼育					夏休みのウサギとの休み時間 お泊まり飼育		ウサギとの休み時間 お泊まり飼育				
劇活動	(集会発表) ①私のこと②「赤い羽のあ③「大きなかぶ」④「おかあさん ⑤今年の抱負 るウサギ」 しっかりね」⑥手作りの発表											
製作活動	私の顔 ウサギの柱飾り					劇のお面作り		鹿煎餅作り・運動会を作ろう (「秋の虫大集合」)			たこ作り・おもちゃ作り はっぱの整理	
6年生との活動	1年間のベア ― おやつバイキング・ ― 運動会で踊ろう ― 模擬店に ― お別れ会 お弁当作り 行こう をしよう											

表 6-2 「しごと」学習の年間計画 (第2学年)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
自由研究活動	朝の会 (友だちの発表)			夏休みの自由研究		研究発表		自由研究発表				
観察・表現活動	虫メガネで観察しよう -草木・生き物-		『気になる木』のはっぱをふやそう -学園前の町大研究-					もうちょっと『気になる』こと大研究			未定	
フィールドワーク	虫メガネで見ながら 虫さんになって歩こう -校庭の草木・矢田自然公園-			二人一組での学園前の町と店のフィールドワーク					冬の生駒山 スケート遊び			
	ニケ辻の水田    ニケ辻の水田    ニケ辻の水田    大阪港に行く											
栽培活動	チューリップの栽培	サツマイモの栽培	稲の苗を植えよう	(稲を見に行く)			稲の花を見に行く	稲刈り	サツマイモ掘り	イチゴの世話		
飼育活動	ウサギの家の世話 →											
劇活動	(集会発表)①写生会 ②ビー玉 ③劇 ④「ふたりはの絵 落とし「えいっ」ともだち」 ⑤大阪港と海 ⑥ ⑦ ⑧ 遊館で見た物											
製作活動	私の顔 ビー玉落とし・クルクル変わり絵			寸劇に必要な物を作る ドーナツ作り			紙芝居発表 箱のおもちゃ・空気砲		船の絵・魚の模型			
家の人との共同活動	浅漬けを作ろう		田植えをしよう		バターを作ろう		稲刈りをしよう		サツマイモとご飯の料理(予定)			

義でダイナミックな実践になっており、細切れの疑似体験に陥りやすい生活科の実践とはかなり異なっていることが見いだされる。

中学年(第4学年)の実践(廣岡, 1995)では、「くらしと水」を年間テーマに取り上げ、①川の汚れ調べ、②汚れの原因調べ、③川を美しくする努力調べの3つのフィールドワークに取り組ませ、最後に「川を美しくしよう」というクリーンキャンペーンの作品(絵と作文)を作らせ、環境教育の視点を入れつつ、「水」を多方面から総合的に捉える学習を行っている。

高学年(第5学年)の実践(廣岡, 1995)では、「稲作の研究」を1学期前半に取り上げ、15の研究テーマを設定し、その学習を踏まえた上で、「米の輸入自由化論争」を課題にしている。ここでは、独自学習(ひとり学習)や相互学習の成果を受けて、米の輸入自由化の賛否について論争させている。疑似ディベート型の討論を数回行わせているが、中間の立場も設定したり、相対立する2つの立場に一度は立たせるなどの工夫も行っている。そのことによって、米の輸入についての認識が深まっていくことが見いだされている。

「しごと」学習は、「個の確立」を目的としているが、授業の形態は、独自学習→相互学習→独自学習→相互学習というサイクルで行われる(廣岡, 1995)。フィールドワークを中心とした実証、子どもの疑問から出発する徹底した追究活動と討論が「しごと」学習の特徴である。また、相部(1985)は、①子ども一人ひとりのやりたいことで、学習がスタートし、子どもの活動がまず先にある、②学習の計画を自分でたて見通しを持って自分で学習を進める、③自分たちの見学・調査計画に基づく実動学習が入ってくる、④学習内容や活動が総合的で、楽しい学習になる、⑤途中で発表し合うという相互学習をとり入れ、それを子どもたちが進めていく、⑥発表と話し合い活動(相互学習)によって、子ども一人ひとりの学習が深まっていく、⑦発表や話し合い学習に基づいて、一人ひとりがしっかりした自分の考えをもつ、⑧子どもの活動が継続し、学習即生活、生活即学習となっていくの8点を特徴として挙げている。

最後に、「しごと」学習のテーマ(「材」)を紹介してみよう。

#### [1年]

・四季の色見つけ、音調べ      ・保健のせんせいごっこ      ・動くおもちゃで遊ぼう

#### [2年]

・自然や社会に目を向ける子どもたちの「町たんけん」      ・「奈良公園の鹿」大研究

#### [3年]

・わたしたちの奈良紹介      ・商店街くらべ      ・おもしろタウン情報をあつめよう

#### [4年]

・水の研究「〇〇川クリーンキャンペーン」      ・大和川改修工事      ・論争でつくる授業「ダム論争」      ・暮らしをささえるライフライン「電気」      ・吉野山地の暮らしをさぐる

#### [5年]

・みかんと牛肉      ・鉄の研究      ・奈良墨の研究      ・論争でつくる授業「米の自由化論争」      ・論争でつくる授業「割り箸論争」      ・奈良のいちご

#### [6年]

・昔の手紙「木簡」を調べて      ・戦争とわたしたち      ・東大寺の謎をさぐる

・Hyper Cardで奈良のガイドブックをつくろう

上記からも分かるように、「しごと」は、低学年では生活科と密接な関係があり、中・高学年では戦後の初期社会科の問題解決学習・経験単元に近いものとみなすことができよう<sup>4)</sup>。

### (3) 「しごと」学習の評価

奈良女子大学文学部附属小学校では、通知表は発行されていない。それ故、本論文では授業における評価の在り方のみを検討することにした。

相部 (1995a) は、指導における評価活動として①「その子」の理解に立つ評価に基づいて活動する、②「その子」のプラス指向をめざす評価活動をする、③「その子」にタイムリーな評価活動をする、④「その子」の見方・考え方を学習に生かす評価活動をする、⑤「その子」の伸び幅をとらえる評価活動をする—の5点を挙げている。これらは、「しごと」のみならず「けいこ」の評価にも通底する考え方である。

廣岡 (1995) は、指導要録での生活科の評価観点の不十分さを指摘し、生活科や「しごと」の評価観点を新たに提起している。

- ① 五感を通して対象に関わろうとする力 (意欲・積極性)
- ② 対象を鋭く観察する力 (観察力) (気付き)
- ③ こだわり・疑問・課題を見つける力 (問題発見)
- ④ 対象心で接する力 (共感) (感情移入)
- ⑤ 問題解決のための創意工夫をする力 (創意工夫)
- ⑥ 個性豊かに表現・伝達する力 (表現力)
- ⑦ 友だちと助け合い支え合う力 (協力・協調性)
- ⑧ 個性的な問題意識に支えられて、新たな方向に活動を発展させる力 (構想力)
- ⑨ ねばり強く追求しつづける力 (追求力)
- ⑩ 自分とみんなのお互いの良さを認め合う力 (自分への気付き)
- ⑪ 個性的で自主的な判断をする力 (自己決定・判断力)
- ⑫ 学習の成果をくらしの中に生かす力 (生活を切り開く力)

「子どもの自立を育てること」と関係が深い生活科や「しごと」学習において、このような多様な観点から評価することは、大切である。指導要録の観点をそのまま通知表に用いたり、授業での評価に用いたりしている学校は多い(藤岡, 1996a)が、何のために評価するのか、評価を指導にどう生かすのかの視点が欠落している実践が目立つ。同校の評価の方法は、観察・表現物・子どもの自己評価・第三者による評価・日常的な会話・日記指導など多様な方法を取り、子どもとの全関係の中で行われている(相部, 1995a; 廣岡, 1995)が、このことは大変望ましいものである。

### (4) 奈良女子大学文学部附属小学校の「しごと」学習に対する問題点と課題

奈良女子大学文学部附属小学校の「しごと」学習は、40数年余りの研究蓄積があり、生活科の原点とも言える側面を持っている。“這い回る経験主義”と批判された戦後初期の生活単元学習とはかなり異なったものである。“価値ある体験”を経験することによって、認識が深まり、発表・討論によって子どもたちは鍛えられ、表現力・創造力・論理的思考

力が高まっていくのである。

特に問題点として指摘するものはないが、要望と課題について触れておきたい。多くの国立大学附属校は、「研究開発」を行うことをその設置目的の一つに掲げているので、学習指導要領に完全に準拠した授業をやらねばならないということはない。公立校よりも自由度は高く、大胆な実践も可能である。それ故に、奈良女子大学文学部附属小学校のような生活と結び付いた実践ができるのではないだろうか。同校の実践を様々な制約のある一般の公立校にそのまま適用できるかどうか、少し疑問である。

最後に、今後の要望を挙げることにしたい。「しごと」学習の「材」が、中学年以上では社会科の単元にかなり傾斜しているように思われる。環境や国際理解、人権、性などに関する「材」も取り込んだクロスカリキュラムを期待したい。

## 6. おわりに

総合学習を行っている3校の小学校の実践を取り上げ、内容を検討した。3校それぞれが特徴を持っており、総合学習によって子どもが大きく変容することも見いだされた。総合学習における評価の在り方については、3校の間でかなり異なっており、他の総合学習実践校の事例も含めて、評価観は極めて多岐にわたっていることが分かった。中央教育審議会答申の「総合的な学習の時間」の評価についての記述は、「子供たちが積極的に学習活動に取り組むといった長所の面を取り上げて評価することは大切であるとしても、この時間の学習そのものを試験の成績によって数値的に評価するような考え方を採らないことが適当であると考えられる」となっている。総合学習の評価については、指導要録や通知表での評価と授業における評価（形成的評価）を同一視せず、切り離して考えていく必要がある。

総合学習の実践に対する学校現場の疑問として、以下の4点が提示されている（『総合教育技術』編集部、1996）。

- ① かつての「コア・カリキュラム、問題解決学習、生活経験学習」などどう違うのか。
- ② これまでの「全体計画」とどう違うのか。
- ③ 小学校の「合科」や「生活科」とどう違うのか。
- ④ 「総合学習」に充てる授業時数をどの程度に考えるのか。この新設は学校教育のスリム化に矛盾しないか。

これらの疑問に対する回答を、総合学習の先進校の実践の分析から導き出すことが求められており、今後の検討課題である。

ところで、文部省の「研究開発学校」では、小学校の新教科の開発や教科の再編についての研究が進められている（藤岡、1996b）。筆者は、各教科の教育内容を厳選する一方で、新たに教科を増設することは無理があるように考える。むしろ、新教科の趣旨に合致する内容を総合学習に取り込む方が、実践はスムーズに進むのではないかと思う。それ故、総合学習のカリキュラム開発の必要性が求められるのである。

本論文では、中学校における総合学習については検討しなかった。文部省の「研究開発学校」での実践のみならず、幾つかの中学校で成果をあげている実践がある。これらの分



析は、今後の課題としたい。

[註]

- 1) 本論文で用いる「材」という用語は、教授材料としての「教材」と、児童が自ら学習する材料としての「学習材」の2つの意味を持っている。「新しい学力観」を積極的に評価する実践家や研究者の一部には、「教材」という用語は“教え込み”と結び付くので良くなく、「学習材」という用語を用いるべきだという考え方がある(藤岡, 1996a)。しかし、筆者の立場はそうではない。教授材料としての「教材」を“教え込み”と結び付けて、指導の持つ意味を矮小化する立場には立ってはいない。
- 2) 信州教育の代表的な研究団体として信濃教育会があるが、信濃教育会の学力論は、広岡亮蔵の三層モデルに依拠したもので、情意的領域の学力が重視されている。そのため「態度主義」であるという批判が研究者の中にある。
- 3) 3領域の具体的な実践例を紹介したものとしては、奈良女子大学文学部附属小学校学習研究会(1993)がある。
- 4) 中・高学年の「しごと」学習の全てが初期社会科的なものとは言えない。環境教育や情報教育などに該当するものも、近年行われるようになった。

[付 記]

本研究の一部は、平成5～7年度文部省科学研究費補助金(一般研究C『「生活科」の教育心理学的研究』 課題番号 05680192)によって行われた。

文 献

- 相部芳徳 1985 しごと学習・その新しい展開にみる特色 学習研究(奈良女子大学文学部附属小学校学習研究会), 298, 8-13.
- 相部芳徳 1995a 「学習法」における評価観 学習研究(奈良女子大学文学部附属小学校学習研究会), 355, 6-11.
- 相部芳徳 1995b 子どもの主体性の発現—附属小学校における「しごと学習」を中心に— 子どもの主体性の発現と展開(奈良女子大学・附属学校園間共同研究紀要), 1, 123-134.
- 藤岡秀樹 1996a 「新しい学力観」を考える—教育心理学の視点から— 心理科学, 18(1), 15-30.
- 藤岡秀樹 1996b 小学校における新教科の研究開発動向について(1) 岩手大学教育学部研究年報, 56(1), 139-152.
- 原田泰延 1995 生きて働く力を育む 平野朝久(編) 子どもが求め、追究する総合学習 Pp.98-142. 学芸図書
- 平野朝久 1995 総合学習の基本的な考え方 平野朝久(編) 子どもが求め、追究する総合学習 Pp.11-54. 学芸図書
- 廣岡正昭 1995 児童の主体性の発現と授業設計—追究する主体を育てる「しごと学習」の授業設計— 子どもの主体性の発現と展開(奈良女子大学・附属学校園間共同研究紀要), 1, 135-149.

伊那小学校 1995 内から育つ 平成六年度公開学習指導研究会研究紀要

伊那小学校 1996 内から育つ 平成七年度公開学習指導研究会研究紀要

北原和俊 1995 内から育つ 平野朝久(編) 子どもが求め、追究する総合学習 Pp.55-97.

学芸図書

村井実 1987 学ぶことと教えること 岩波書店

奈良女子大学文学部附属小学校学習研究会 1993 子どもの自立をたすける学習法 第1学年～  
第6学年 明治図書

奈良女子大学文学部附属小学校 1996 平成8年度学習研究集会発表資料

『総合教育技術』編集部 1996 〈総合学習〉への期待と疑問 総合教育技術1996年10月号, 51(12),  
12-14.

泊小学校 1995 生きて働く力を育む 平成七年度公開学習指導研究会研究紀要

泊小学校 1996 生きて働く力を育む 平成八年度公開学習指導研究会研究紀要

泊小学校4年A組 1991 「メーさん」とともに一山羊と私たちの2年間－